

退院時サマリー作成における 生成AI活用の取り組み ～大学病院での実証を通じて～



学校法人藤田学園 デジタル戦略部 | 山田英雄

本稿は、大学病院での退院時サマリー作成に生成AIを活用した実証を報告する。電子カルテからAIが自動生成し、医師が確認・修正することで作成時間を約6割短縮し、9割以上が実用的品質と評価された。今後は他文書や他施設への展開を目指す。

This paper reports on a pilot project using generative AI to assist in creating discharge summaries at a university hospital. The AI automatically drafts summaries from electronic medical records, which physicians then review and revise. This approach reduced creation time by about 60%, and over 90% of the summaries were judged to be of practical quality. Future plans include expanding the system to other types of medical documents and introducing it at additional institutions.

1. 生成AI導入の背景と目的

医療現場では、患者ニーズの多様化や高齢化の進展により、医療従事者一人ひとりの負担が年々増している。特に医師の長時間労働は社会的にも大きな課題とされ、「医師の働き方改革」や「タスク・シフト／シェア」の推進が国を挙げて進められている。

一方で、これまで多くの医療機関で導入されてきたICTシステムや電子カルテは、必ずしも現場の実態に即していないケースもあり、入力作業の煩雑化や運用の非効率さが新たな課題として指摘され

てきた。

私たちが考える「真の医療DX」とは、テクノロジーを単に導入することではなく、現場の声に寄り添いながら、医療従事者がより専門性を発揮できる環境を整えることにある。

その中で私たちが注目したのが、退院時に作成される「退院時サマリー」である。この文書は、患者が自身の病状を理解する助けとなるだけでなく、退院後の診療を担う地域の医療機関や訪問看護、介護事業所など、多職種間の連携を支える重要な情報基盤である。

しかし、退院時サマリーの作成は非常に手間のかかる業務であり、膨大な診療

記録を振り返りながら、要点を抽出し文書化するには相応の時間と集中力を要する。特に大学病院のように診療科が多く、症例が複雑な場合には、その負担はさらに大きい。

こうした現場の実情を踏まえ、私たちは「生成AI (Generative AI)」を用いて、この業務を支援できないかと考えた。AIが電子カルテ情報をもとに退院サマリーの“初稿”を自動生成し、医師はそれを確認・修正する形にすれば、文書作成の効率化と標準化の両立が期待できる。

本稿では、その構想のもとで行った当院の実証と、その成果、今後の展望について紹介する。